

特集1

ナラティヴの10年

野口裕二×和田恵美子×大久保功子×宮坂道夫

看護学雑誌1999年10月号に、社会学者の野口裕二氏の論文「ナラティヴ・セラピーとはなにか」が掲載されてから10年がたちました。「ナラティブ(語り、物語)」という言葉は、看護の世界で大いに注目され、受け入れられたといえるでしょう。

しかし今、「ナラティブ」の核心が見えなくなっているという反省が多くの学問分野で生まれつつあるのです。

看護では、どうでしょうか？ 臨床・研究両面から、現状と展望を語っていただきます。

特集2

はかる、わかる、かわる。

糖尿病セルフケア支援

炭水化物量を測定して行う栄養管理であるカーボカウント法の基礎と実際、従来は1型糖尿病で主に行われていた血糖自己測定(SMBG)を2型糖尿病で行うことの効果、現役のドクターが行った糖尿病当事者研究……糖尿病ケアの現場で今求められるのは、自分の身体を知り、行動を変えていく、セルフケアの支援。最新のケアを取り上げます。

編・集・後・記

●「辞める人には、気持ちよく辞めてもらえるようにしています」と語るのは、ある急性期病院の看護部長さん。「人員不足だから、もちろん辞められたら困る。特に中堅に抜けられるのはきついです。でも、本人にはいろんな事情がある。それを汲んであげたいなと思うから」とのこと。興味深いのは、そうやってしこりを残さず辞めたスタッフのなかには、後に同じ病院に復職する方が少なからずいるということ。この看護部長さんの病院では今年、なんと13人もの復職者があったそうです。戻った理由を聞くと、「親の介護で辞めたが、看取ることができたので」「他の病院に行って、元の職場のよさがわかった」など、本当にさまざま。一般企業ではまず耳にしない話ですが、看護師さんの場合、どうなのでしょう。今はどの病院でも慢性的な人員不足と言われていますが、「気持ちよく辞めてもらうことが人材確保につながる」というのは、ちょっといい話です。【鳥居】

●先日、転んで両肘に10cm程度の擦り傷をつくりました。すぐに、傷口の奥深くまで付着していた砂を綿棒でぐりぐり〜とこすって落とし、その後、湿潤環境を保ち、2週間程度である程度治りました。今ではあたりまえの治し方ですが、私が子どものころは、赤い消毒液を使用したり、傷口を乾燥させるのがいいと言われていたりしていました。毎日、傷口の処置を行いながら、医療の進歩を実感してありがたがっていましたが、根本的な問題解決にはいたらないことにも気づきました。やはり、転ばない体づくりが必要です。転ばない体をつくるのは、10年たっても変わらない走り込みです。【吉田】

看護学雑誌 第73巻第9号 2009年9月1日発行(毎月1回発行)

発行/株式会社医学書院 代表者 金原優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2009, Printed in Japan

1部定価 1,260円(本体1,200円+税5%) 年々め予約購読料 13,200円、電子ジャーナル閲覧オプション付 18,200円(いずれも税込、送料弊社負担)

・定期購読のお申し込み先/(株)医学書院販売部 TEL 03-3817-5659

・Vol.71 No.8以前のバックナンバーのご注文先/(株)東亜ブック TEL 03-3985-4701

「看護学雑誌」編集室(担当/鳥居・吉田・白石) TEL 03-3817-5772

表紙・本文デザイン: DESIGNWORKSHOP JIN

E-mail kangaku@igaku-shoin.co.jp 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCOPY (社)出版者著作権管理機構 委託出版物)

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。

複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。